

令和 6 年度 地区別ふくし座談会 報 告 書



令和 7 年 3 月

ふれあいネットワーク



社会福祉法人 関成町社会福祉協議会

はじめに

暮らしに身近な小地域（自治会域）において、住民の方々が地域のさまざまな福祉課題をみずからの問題としてとらえ、その解決へ向けてそれぞれの地域にふさわしい創意と工夫をもって主体的に取り組めるよう、開成町社会福祉協議会（以下「かいせい社協」）では自治会福祉活動を積極的に応援しています。

今回その一環として、役職員が町内全地区へ赴き、住民の方々と膝を交えながらこれからの福祉のありかた等を話し合うことにより、福祉活動における自治の実現をめざしたさまざまな取り組みのより一層の充実・発展を図るとともに、開成町らしい福祉コミュニティ（共助文化）づくりに寄与することを目的として、「地区別ふくし座談会」を開催しました（＊平成6年度から隔年開催）。

この報告書は、座談会において住民の皆さんからお寄せいただいたすべてのご意見やご要望をテーマ別に分類し整理したものです。ご一読いただき、福祉のまちづくりへ向けてそれぞれの機関や団体においておおいに活用いただければ幸いです。

もくじ

ページ

I 座談会での意見から	1
1 開成町における自治会福祉活動の“いま”についての声 ～こんなことやってます！（現状）～	2
2 開成町における自治会福祉活動の“これから”についての声 ～こんなことができるといいな！（課題）～	6
3 社会福祉協議会・町へのリクエスト	
1) 社会福祉協議会へのリクエスト	13
2) 町（役場）へのリクエスト	17
4 その他	
1) 地域のいま	19
2) わたしの福祉観	28
3) チョットひとこと	30

II 関係資料

I 座談会での意見から



1 開成町における自治会福祉活動の“いま”についての声 ～こんなことやってます！（現状）～

岡 野



（ふれあい交流行事）

先日の秋祭りは、お子さんの参加もあり昨年に比べて盛大にできました。

金井島



（世代間交流）

先日行われた地区敬老会の際、未就学児の子どもたちが歌に合わせて舞台上で劇を披露してくれましたが、ああいうのはとてもいいな—と思いました。何か特別なことをするのではなく、そこにいて歌を歌ったり手をつないだりしてくれるだけで喜んでもらえます。ぜひ続けていてもらいたいです。

円 中



（サロン活動）

円中福祉部の主な取り組みとしては、子ども向け事業と高齢者向け事業があります。子ども向けには町の支援センターと一緒に親子で七夕飾りやクリスマスリースづくりなどを年4回、高齢者向けにはほぼ毎月サロンをやっています。月によっては両方で2回やる月もありますので、事業を企画する側からすると「たいへんだ」との声も出ています。



（生活支援活動）

社協の援助のもと、「ちょこボラ円中ブロック」を自治会と老人クラブでつくり、いま51人のメンバーがいます。この2年間でゴミ出しや庭木の剪定・除草、繕いや犬の散歩、外出の付き添いなどのニーズに対応してきました。ちょっと困ったことに対応できるような、助けてもらいたい人と助けたい人をつなぐような、そういう支え合いの組織になるといいと思っています。そういうたすけあいが地区のなかでもっと浸透していくよう、これからも自治会や社協と連携して挑戦し続けていきたいです。

宮 台



（サロン活動）

月にいちど定期的にサロンをやっていますが、20人くらい集まります。内訳は女性が約3/4、男性が約1/4です。動くことは問題ありませんが、毎月何をやるか企画するのに苦労しています。



（サロン活動）

サロンで感じるのは、女性はおしゃべりするのが楽しいのだ—ということです。高齢になると家にいることが多くなりますが、出てきてくれるのはいいことだし、ありがたいです。



（サロン活動）

用事があって外へ出かけることは、高齢者にとって大事です。サロンではお弁当をとってみなで食べることもあります。毎回手を変え品を変え工夫しながらサロンを行っています。



（サロン活動）

先日のサロンでは、文化祭に出展すべく紙コップでフラワーをつくりました。最初は乗り気でなかった高齢者も最後は楽しんでもらえました。手を使って何かをつくるのは認知症予防にも効果があります。



牛 島



（サロン活動）

いきいき健康体操を月に 2 回やっていますが、何回かにいちど一緒に食事へ行ったりします。皆さん外へ出たいのです。



（サロン活動）

憩の家から遠い方でも、お元気な方が誘ってサロンへ参加してくれています。



（地区敬老会）

牛島はお元気な高齢者が多い印象です。サロンのほか、訪問等もしています。先日の地区敬老会は 35 名の方に参加いただきました。案内回覧を回したところ、参加希望の方はほとんどおられませんでした。民生委員や福祉部員がお祝いを届けたときに声かけした結果、それだけの方が集まりました。信頼関係が築けているからだと思います。ただ「来てください」といってもなかなか来てもらえません。良好な人間関係をつくっておくことは大切です。



（サロン活動）

福祉というと高齢者にとっては何かしてもらうことと捉えがちですが、そんなことはなく、一緒に何かすることで福祉部のこちら側が教わるがたくさんあります。サロンでカラオケをやることになったのは、高齢者の方からの働きかけが発端です。一緒にやっている感があり、いいなと思います。



（ふれあい交流活動）

夏休みに子どもたちと一緒にみなで製作活動をしました。小学生と同じ空間で作業するのは、高齢者にとって楽しかったのではないのでしょうか。



（地区内連携）

牛島の場合、民生委員さんは福祉部のメンバーでもあるので連携はとれているのではないのでしょうか。何かあれば福祉部員間で話し合う体制はできています。



（情報共有）

自治会行事へ参加してもらえよう、福祉部から高齢者へ訪問や声かけをしているのでだいたいの方は分かります。このつながりは大事にしていきたいです。いっぽう、子どもたちはどこの誰なのか名前も含めてまったく分かりません。何かことがあったとき、問題が起きなければいいのですがー。



上 島



（訪問活動）

伴侶を亡くされひとり暮らしになった高齢者のお宅へ伺い、「ご飯食べてる？ 公民館で行事があるときは来てね」と声掛けしていますが、実際具合が悪くなったときなど、家族がいないと困ることが多いですね。



（見守り）

お隣の高齢者宅で二日続けて夜雨戸が閉まっていないときがあり、心配になって近所の方に聞いたら、「みかけたよ」とのことだったので少し安心しました。



（サロン活動）

先日、特殊詐欺の講座を福祉会館で聞いてきて、地区の人たちにも聞いてもらいたく、地区のサロンでミニですが同様の内容で行いました。



（世代間交流）

今月、生涯学習部でハロウィンの集いをやるのですが、そのとき福祉部はベビーシッター役でお手伝いすることになっています。また、花の寄せ植えをするときは逆に生涯学習部の方々に資材を運んでもらったりと、互いに交流できるようにしています。どんど焼きは子ども会がないので自治会主催で行い、福祉部はお手

河原町

伝いというかたちです。



（地区敬老会）

町の敬老会がなくなっただけ、上島では従前のやり方で地区敬老会をやっていましたが、皆さん高齢になり「集まらない」ということで福祉部員と民生委員で75歳以上の方々へ記念品を配らせてもらっています。今までやってきた情報をもとに対象となる方へ届けているのですが、漏れてしまう方もおられます。



（ふれあい交流活動）

以前の夏祭りから2年前に秋祭りへと変わって内容も大幅に変わりましたが、今年は小中学生が舞台上に上がるなど変化があって良かったです。ぜひ来年以降も続けてもらいたいイベントです。



（生活支援活動）

河原町おたすけ隊でも送迎活動は当初やるつもりでしたが、人材含めてハードルが高く、いまは他にできる範囲のなかでやっているのが現状です。

榎本



（ふれあい交流活動）

従来から行っている夏祭りは、今年から秋祭りとして行います。自治会主催で福祉部も協力します。文化展も同様のかたちです。他に福祉部研修会やパークゴルフ、地区敬老会、さくら祭り等ありますが、いずれも参加者が20人くらいで固定化してしまっているのが現状です。また、部員も若い人になかなか入ってもらえず、いま平均年齢は70を超えており、かなり硬直化したものとなっています。



（地区敬老会）

地区敬老会では子ども会をととして小学生に出演してもらい、歌を披露してもらったのは良かったです。

中家村



（ふれあい交流活動）

先日さつま芋掘りをしましたが、けっこう多くの親子連れ、若いお母さん方が来てくださいました。何か行事をやるのはたいへんですが、子どもたちが「ここに住んでよかった」と思ってもらえるような地域になるといいと思います。



（サロン活動）

毎週水曜日にこの公民館でカーレットサロンをやっています。けっこう盛り上がっていて、いま台が2台あるのですが「足りないからもう1台購入してくれ」との要望も出ています。他にもパークゴルフやマージャンなどもありますので、ぜひ出てきてもらい交際範囲を広げてもらえるといいと思います。以前の自治会長さんのとき、「いつでも気軽に公民館に集まって、おしゃべりやお茶が飲めるサロンをつくらう」と始まったことですが、いまようやく実を結んできた印象です。「午前だけでは物足りないの、午後も部屋を借りたい」との声も上がっています。

パレットガーデン



（災害時対応）

私は管理組合はあくまでハード面の管理であり、人のつながりは自治会という考えです。パレットの場合、同じ階の方で組がつけられているので、「あの人はひとり暮らしだ」等ある程度は分かります。そうした方を組長が災害時要支援者として登録し、自治会長へ提出します。また、その情報は民生委員も共有しているので、いざ災害が起きたときは組長や民生委員、自治会役員が対応する一としています。



（地区敬老会）

パレットでは敬老祝賀行事としてこの自治会館で食事会をしますが、「それが嫌だ。前のようにお弁当を配ってもらったほうがよい」という人もいます。



（世代間交流）

遊び隊は子どもがメインですが、ご高齢の方にも先生役として参加してもらうことがあります。いろいろな経験をお持ちの方が近所のおじいちゃんおばあちゃんとして得意な手芸などを教えてください。高齢者も生きがいをもってもらえるのではないのでしょうか。



（サロン活動）

私のいる参番館には、女性 15 人くらいの茶話会があります。特に届出はしていませんが、月に 1 回集まっておしゃべりしながら手芸などを教え合っています。コロナ禍を経て規模は小さくなってしまったものの続いており、今月も食事に出かけます。小さなお子さんと何か一緒にできたらいいですね。



（サロン活動）

茶話会にお誘いすると、「私はそういうのは一」と引かれる方がいるいっぽう、数回参加後「誘ってくれてほんとうに嬉しかった」といってくださる方もいます。ほんとうに人それぞれです。



（ふれあい交流活動）

先日、福祉部でハロウィンイベントのお手伝いをさせていただきました。参加したのは初めてでしたが、素晴らしかったです。自治会のなかには子ども事業部や生涯学習部もあり、それぞれの部長がしっかりやってくださっています。



（地区敬老会）

地区敬老会ですが、コロナ禍のときは食事ができなかったので福祉部で記念品を配っていました。「名前を書けば家にいてももらえる」とのことで大勢の方に申し込みいただき、大赤字でした。でも、何のために敬老会をやる—と考えたとき、やはり顔を合わせてつながったり、コミュニケーションを図るのが本来の姿だろうと思うのです。そこでコロナ禍が明けた昨年、アンケートをとったところ、「ひとりでお弁当を食べても美味しくない」との声がありました。お弁当を配るのがいいのか、会食型式がいいのか—といえば、私は「寂しい」という方を救うために福祉はあると思いますので、昨年今年と会食型式に戻しました。



（サロン活動）

私はいきいき健康体操の指導員をしています。パレットは参加率もよく、横のつながりもできて、また皆さん「楽しい」といってくださるので教えている私も元気をもらっています。こうした活動がもっと増えていくといいですね。

みなみ



（ふれあい交流活動）

いまの子どもたちに何か楽しい思い出をつくってもらえれば—と収穫祭などのイベントを企画し実施しています。どんど焼きもやりたいのですがまだそこまでチカラがなく、お祭りもやりたいのですが歴史がなく山車や神輿ももちろんありません。それでもトライアンドエラーで少しずつやってはいるのですが—。

2 開成町における自治会福祉活動の“これから”についての声 ～こんなことができるといいな！（課題）～

岡 野



（移動手段）

いままで車を運転していた人ができなくなり、買い物などの移動に困っている—との声をよく聞きます。近所の人が手伝うにも、もし事故があったら困るので躊躇してしまいます。



（移動手段）

路線バスを復活するにしても、バス停まで来られない方もおられます。この憩の家にさえ歩いて来られない方は多くおられます。



（地区間交流）

みなみの子どもたちと交流するなどの話は理想であり、正直私たちがあちらへ行って野菜づくりを教えるなどという気持ちにはまったくなれません。私たちは生活のために農業をやっているので、とても遊びの相手をしている暇などありません。



（将来不安）

共助の必要性は分かるものの、私たち自身が高齢だから無理な部分があります。老々介護になって共倒れになるのが目に見えています。岡野の高齢者はみな介護施設に入るしかないかもしれません。明るい展望などとても描けません。



（生活課題）

暮らしているなかでいちばん困るのは、やはり日々の買い物です。宅配を頼んでいる方もおられますが、ひとり暮らしの方からは「量が多くて—」との声をよく聞きます。



（ふれあい交流行事）

ふれあい交流行事は、印象として年々参加者が少なくなっているように感じます。固定化された方ばかりで、呼びかけても来ない人はまず来ません。昔はもっとつながりがあったように思いますが—。それだけみな年をとったということでしょう。

金井島



（ふれあい交流行事）

共助を育ててゆくために、私は幼児教育が必要だと思います。小さい頃から人と交わることが楽しいとか、たすけることに喜びを感じるとか、そういう気持ちを醸成していかないといけないでしょう。



（将来不安）

地域のボランティアを担っている人たちがだんだん高齢化してきていて、先細りのような印象があります。やらなければ続いていけないし—。「互いにたすけあっていきましょう」との気持ちはあるものの、それが体力的に難しくなっている現状があると感じます。共助に関しては、金井島の場合、特に意識しなくても「お互いさま」との気持ちは皆さんもっておられると思います。



（生活支援活動）

共助思想の普及・啓発は大事ですが、いま他地区では有償ボランティアみたいなうごきがあります。少しずつそういう方向にいかざるを得ないか—とも思います。



（移動手段）

金井島のなかで何がいちばんニーズとしていま大きいかーというと、やはり足・交通の問題です。高齢になって車も運転できないなか、ここからマックスバリュまで買い物に歩いていくのはかなり負担です。何か解消できる方法があればいいのですがー。コミュニティバスもありますが、実際あれを使って買い物にーというのはなかなか難しいです。金井島の方のバス利用が少ないのは、利便性に難ありだからでしょう。単に便を増やせばいいかーというと、それにはお金も人も余計にかかるしー。



（ふれあい交流行事）

異なる世代が交わる場というのは、いま非常に少ないです。



（つながり）

今後災害等何があるか分からないとき、日頃からの近所のつながりがないと、もっと高齢化がすすんだときに地域が成り立たなくなってしまう。つながりは大事です。能登半島地震のときも、実際一命をとりとめた人のうち、約8割は隣近所の方によって救助されたとのこと。日頃からどこにどんな人が住んでいるかを皆が互いに把握しておけば、災害にも強い地域になると思います。



（訪問活動）

訪問はいいことですが、ねたきりの方などへは接し方が難しいです。そういう方へは訪問でなく、別なかたちのほうがよいのか悩むところです。いま行っていたでいてる民生委員さんの訪問活動はとてもよいことだと思っています。



（訪問活動）

例えば、「何かお困りごとはありませんか」とひとこと声をかけるだけでもよいと思います。ひとり暮らしの高齢者などは、そうされるだけでほんと安心される部分があるのではないのでしょうか。



（訪問活動）

民生委員さんと一緒に訪問したとき、「余計なことはしてくれるな。他人の世話にはなりたくない。ほっておいてくれ」といわれた方もおられました。それならいいかとも思いますが、よくよく話してみると本心でないこともあります。



（SNS 交流）

元気な高齢者がより健康寿命を延ばしていくために何ができるでしょうか。やはり人と交わることは大切なので、自治会として考えたのは孤独感を解消するためにスマホのラインを使い、悩みごとなどを話せる友達グループをつくることです。岐阜県の小さな自治体で高齢者が交流する同様の先行事例があります。高齢者にラインの使い方を教えて、そういうネットワークがくれたらいいなーと思っています。SNS をよく知る中学生や孫世代の方が先生役となり教えてもらうことで、世代間交流にもなります。そういう試みを自治会内でしたいと思っており、社協でもバックアップしてもらえるとありがたいです。自治会のいろいろな行事を回覧で回してもみてもらえないので、そういうツールを利用するのもひとつの手段です。



（SNS 交流）

ライングループについては、「年内にできるといいね」と役員間で話しています。一対一で教えてもらえれば、若い人との交流もできます。



（SNS 交流）

いまは子どもたちのほうが忙しくて難しいのではないですか。



(SNS 交流)

いま福祉部は 14 人部員がいますが 70 代の方が多く、以前「ライングループをつくるか」となったとき、賛成してもらえませんでした。



(SNS 交流)

どういう方を対象とするのですか。スマホをもっていない方も大勢いますよ。



(SNS 交流)

まずスマホを持っている人を対象としたいです。現実にはスマホを持っている高齢者は予想以上に多いです。



(SNS 交流)

スマホを持っているいない—ではなくて、持っていない人にも知ってもらい、増やしていければいいと思います。本来顔を突き合わせてできればいいのですが、ラインなどを使ってつながることはできると思うのです。岐阜県の事例では、ラインで高齢者がつながり活性化しているとのこと。



(ニーズ把握)

地区内にひとり暮らしの高齢者は多くおられますが、そうした方が自治会に何を期待され求められているのか把握できていません。災害時の見守りのしくみはありますが、やはり日常が大切です。近所のたすけあいといっても、具体的にどうしたらよいか分かりません。



(ふれあい交流活動)

健康で元気な高齢者と小さな子どもたちとが何らかのかたちで接触し交流することにつながりがもてるよう考えていきたいです。



(コロナ禍影響)

隣近所との交流を考えたとき、コロナ禍の 3~4 年間自分の組ではまったく集まることができず、明けたいまも以前の会食会など復活できていません。その影響はとても大きいと思います。ここ数年の空白により参加しようと思わなくなり、足が遠のいた—ということがあります。そのへんをどこからどうやって戻していくか、考えないといけません。



(ニーズ把握)

自治会の役員をやる前までは自分も「こんな話し合いめんどうだな」と思っていました。特に困っていることはないし、自分のことは自分でできる—。個人主義の方が多く、みなそんな感じではないでしょうか。でも、近所の人がどんな人なのか分からず、災害のときに何ができるのか—と考えます。役員をやって分かるようになりました。



(生活支援活動)

上延沢のおたすけ隊はいま待機状態であり、見直す時期に来ているのかもしれませんが。



(ふれあい交流活動)

自治会館前の広場で小さなお子さんがよく遊んでいます。高齢者の方と何かつながりがもてるようなことはないか—と思います。阿波踊りでは園児から大人まで交流の場がありますが、「みなであじさい音頭を踊ろう」などという企画があるといいです。



(ふれあい交流活動)

自治会館に血圧計がありますが、使われているのをみたことがありません。卓球で集まったときなどに測るようにしてもいいですね。ただ集まってお茶を飲むだけでもいいので、出かけるところがあるのは大事です。子どもたちに参加しても

らうために、子どもたちの希望を聞いてみてはどうでしょうか。



（生活支援活動）

高齢化でひとり暮らしの方が増えており、「ゴミ出しがたいへん」という声を聞きます。他の自治会ではおたすけ隊や見守り隊等をつくって支援しているところもあり、ゴミ出しなら 1 回 100 円でやってもらえるそうです。無料だと頼みづらいのでしょうか。いっぽう、需要が多くなって自治会側が対応できないケースも出てきていると聞きます。支援者も高齢になって、高齢者が高齢者を支援している状況です。



（ふれあい交流活動）

福祉部長として感じるのは、コロナ禍の影響で外出する機会がなくなったり老人クラブの会員数が減ったりして、地域での横のつながりが減ってしまったな—ということです。昔は葬儀があると近所の方と顔を合わせ、「最近どうなの」と話す機会がありましたが、今はみな家族葬なので亡くなったことすら分かりません。関りが少なくなってしまったことで、自治会の活動にお誘いしてもなかなか出てきてもらえない方が増えた印象です。また、デイサービス等を利用されていて、日中自宅におられない高齢者も多いです。



（ふれあい交流活動）

コロナ禍で諸々の自治会行事がなくなり、福祉部活動でも以前やっていた花見がなくなったり規模が縮小されたりして、人と人が向き合う時間が少なくなっていました。どう解決していけばいいのでしょうか。



（サロン活動）

参加者を増やすためには、もっと口コミを増やしていったって、近所の方を巻き込んでいくようなかたちで広めていくことが大事です。いま、サロンのように気軽にお茶を飲むような場がありません。そうした場を求めている高齢者は多いのではないのでしょうか。福祉部のほうでももう少し積極的に声掛けしてもらえるといいと思います。



（地区内連携）

コロナ禍以降、各専門部長はみな引いてしまっている印象です。部長間での打ち合わせが年に何回かあると連携しやすく、いいかもしれません。他の自治会のように育成会でやっている公園の鉢植えや体育部でやっているパークゴルフを福祉部と協働することなどができるのではないのでしょうか。



（サロン活動）

何か行事をやっても、出てこられる人が限られてしまっています。決まった人しか出てこられません。だんだん年齢が高くなると参加できなくなる人が増えてきますが、新しく入ってくる人が少ないのが悩みです。



（災害時対応）

いいかどうか分かりませんが、例えば要支援の方へ赤黄緑の旗を渡しておいて、いざ災害が起きたとき、大丈夫であれば緑、助けが必要なときは赤の旗を出してもらうなど、目でみて分かるような体制がつくれていくといいなと思います。



（災害時対応）

民生委員をやっていると感じるのは、自治会を抜けると名簿に載ってこない人が出てくることです。回覧が回って登録希望者は申し出るのですが、自治会に入っていないと回覧も回らず、自治会の名簿に載ることもありません。災害になったら



宮 台

自治会に入っているいないに関わらずたすけあわないといけないのですがー。



（サロン活動）

サロンのほか、麻雀教室やE スポーツもできたらいいですね。まず私たちが覚えて先生役になりましょう。



（福祉部運営）

福祉部員を増やさなくてはいけないでしょう。若い人や男性が入ってくると嬉しいです。口コミがいちばん効果的ですが、募集回覧を回してみましょう。



（サロン活動）

男性の集まれる場としては、いまカラオケはなくなってしまい、囲碁は5人くらいしかいません。



（子育て支援）

高齢者はどこに誰がいるか分かっており会えばあいさつしますが、子どもは分かりません。自治会として子どもの福祉にはまったく手をつけられていないのが現状です。



（ふれあい交流活動）

私は小学校の文化祭に招待されましたが、みていて涙が出ました。地区敬老会に子どもたちを招いて歌など披露してもらえると、高齢者は喜ぶと思います。そういう交流が図れるといいです。



牛 島



（生活支援活動）

自分の組をみていると70代の方が多く、あと5年もしたらみな後期高齢者です。そうなったとき、「買い物や通院はどうする」という話をしています。他の自治会のように、そうしたことをサポートしてくれる組織があれば心強いのです。



上 島



（個人情報）

以前、町の住民基本台帳から上島の75歳以上の方を抜き出そうとしたことがありましたが、途中で挫折しました。



（個人情報）

住民基本台帳から抜き出して訪問すると、「私の名前をどこで知ったの？」となるので、いまは「希望される方は申し出てください」としています。そのなかでおひとり自宅が分からない方がおられました。災害時を考えると心配です。私たち民生委員はせめて地区内の後期高齢者の氏名と住所を把握しておきたいです。小田原市では住基ネットから自治会へ情報が開示されており、民生委員はどこに何歳の方がおられるかを把握しています。



（サロン活動）

広報が配られますが自ら意識しないとみないし、参加もしません。地域のサロンなどへ看護師に来てもらえると魅力が増すのではないのでしょうか。



河原町



（生活支援活動）

福祉部としては、中家村で始まった送迎活動のようなものを今後考えていきたいと思っています。



中家村



（ふれあい交流活動）

自治会として、小さい子どもたちが芋掘りなどをつうじて楽しい思い出をつくっ

てくれるといいなと思います。また、新しく転入されてこられた人たちにも「中家村に住んでよかった、いいところだ」と思ってもらえるよう、地道な活動ですが続けていきたいです。何か行事に参加してもらえれば、地域とのつながりも自然とできてきます。



（災害時対応）

要支援者の名簿を各組ごとに出してもらっているのですが、災害時など何かあったときには組内で気にかけてもらえるとうれしいです。



（ふれあい交流活動）

自分は60代、月水金はまだ仕事をしていますが、それ以外は暇です。「何か役に立てることはないか」と町のサポートセンターをのぞきましたが、特段趣味もないため合うものがありませんでした。仲間をつくるきっかけが何かあればいいなと思っています。いま、子ども食堂があちこちでできていますが、食事するだけでなく、そこに高齢者も集えるような場になるといいですね。



（生活支援活動）

中家村には災害救助支援隊をはじめ、いろいろな組織があります。組長をやったことをきっかけに他の自治会活動へも参加してほしいです。お互いさまネット中家村でお出かけ支援サービスを新たに始めました。今後、利用希望者がかなり増えそうなので、「ドライバーならやってもいい」という方がおられましたらぜひ連絡ください。「若いからまだいいよ」といわず、今からデビューしておけば定年後もスムーズに地域へ溶け込めます。



パレットガーデン



（世代間交流）

子どもたちはマンション内で高齢者とすれ違っても素通りしているので、「あいさつするんだよ」ということも教えていきたいです。世代間交流が遊び隊のひとつの目標でもあります。エレベーター内に案内を貼っていますが、参加してもらえる高齢者はまだそれほど多くありません。運営に関わる側の人材不足も課題です。



（福祉部運営）

福祉部長は任期2年ですが組長は1年で交替してしまうので、メンバーがコロコロ変わってしまいます。そのなかで何か新しいことをつくり出していくのは無理なので、部長がある程度ルールを引いて指示しながら運営していくしかないと思っています。



（サロン活動）

昼間おしゃべりしたい人がつながれるために、毎月ふれあいサロンのようなことができればいいです。



（災害時対応）

災害時要支援者登録制度は、自治会で何か方針を決めて引き継いでいてもらいたいです。自治会に入るメリットが減っているなか、これは大きいと思います。個人情報なので気をつけなければならないし、回覧しても書いてもらえないかもしれません、アピールしていきましょう。



みなみ



（地区間交流）

例えば私たちみなみの人と岡野の人たちと共同で何かできないでしょうか。他自治会との交流など、そういう結びつきというのはあってよいと思います。収穫祭のときに先生役としてプロの方が来ていただけたらいいかなー。



（地区間交流）

収穫祭のときよりも、むしろ畑に芋苗を植えるときにぜひ子どもたちに指導してもらえたらありがたいです。北と南、まったく違う地区どうし交流できる場が実現できたらいいと思います。



（サロン）

子ども向けにはリーダーシップを発揮し担ってくださる方がいたので育児おしゃべり会などができましたが、お子さんの成長とともにその後は続いていません。高齢者向けにも以前「賢人会」と名付けて敬老会的なこともやったのですが、コロナ禍以降はできていない状況です。



（サロン）

高齢者向けに麻雀などいいのでは一と思ったりします。



（サロン）

ダンスやオカリナの集まりはありますので、そうしたものが横のつながりをもって広がっていくといいですね。



@金井島

3 社会福祉協議会・町へのリクエスト

1) 社会福祉協議会へのリクエスト

自治会福祉活動支援

- ❁ 他の自治会では移動支援のための運転ボランティアをはじめたところもあると聞きます。ハードルは高いですが、そうした盛り上げ役の方が地区にいるのといないのではけっこう違ってきます。モデル的によいことであれば、町や社協が音頭をとって他の地区へ波及できるようにしてほしいです。自治に任せるばかりでない支援を望みます。(上延沢)
- ❁ 社協から年間 13 万円の補助金をいただいています。これはその使途として福祉に関連すれば何に使ってもいいのですか。例えば、老人クラブへの活動補助として出すことはできますか。(下延沢)
- ❁ 町内の各自治会で行われている福祉活動のなかで、実際に福祉部が企画・実施している事業とその内容を知りたいです。(円 中)
- ❁ この座談会での発言等内容を他地区の分も含めて後で教えてください。(円 中)
- ❁ 中家村の送迎活動のようなものを河原町でも始めたい—という場合、登録や保険、ドライバー講習などについて、社協は相談にのってもらえますか。(河原町)
- ❁ 資料からも河原町は高齢化率が高いので、いろいろな場面で社協にお手伝い願いたいですし、ひとり暮らしの方が孤立しないようにしていかなければいけないと思います。(河原町)
- ❁ 何かいい成功事例があれば教えてください。(みなみ)
- ❁ 他の地区の様子をみると、それぞれ活発に行われています。町の事業に個別に参加すればいいのでは—とも思いますが、いかんせん知らないのです。やっているのは広報紙などで知ってはいても、もともと地元の人間ではないので仲間も誰もいない、子どもの頃から知っている人もいないので、そういうところにボンと入れないのです。ニーズはあるので、できれば社協なりが上手く橋渡ししてマッチングしてくれるとありがたいです。(みなみ)

当事者活動支援

- ❁ 老人クラブのサロンについては、従前からパンフレットをつくって回覧を回し参加者を募ることはしていますが、もう少し皆さんに興味をもってもらい浸透できるような広告の方法を社協の協力を得てやっていけたら—と思います。(下延沢)
- ❁ 町の敬老会はなぜ廃止となったのですか。その分の経費はどこへ回っているのですか。(パレットガーデン)

相談

- ❁ 自分や家族に介護が必要になったとき、どこへ相談すればいいのかわかりません。第一歩が踏み出せないのも、介護巡回相談などをやってもらえるとありがたいです。(岡 野)

地域包括支援センター

- ❖ 包括支援センターという名前が硬すぎるのではないですか。もっと気軽に相談できるような名前のほうがよいのでは一。(上 島)
- ❖ 社協は同じ事務所内に包括支援センターが入っていますが、私たち民生委員からすると相談などはどちらへ行ったらいいのか迷うことがあります。(下 島)

在宅福祉サービス

- ❖ 移送サービスは通院だけでなく、買い物にも利用できるようになるとありがたいです。(岡 野)
- ❖ いま中家村で移送サービスみたいなものが独自に始まりましたが、高齢化するドライバーの確保を含めて継続していくにはかなりの労力が必要です。自治会単位で続けていくのは大変です。それよりは町や社協が何か上手いしくみをつくっていくことが必要でしょう。(金井島)
- ❖ 社協の行っている移送サービスは、事前登録と一週間前までの予約が必要とのことですが、それら条件を取り払ってもらえませんか。知り合いで急に運転ができなくなり、予約してあった通院が難しくなった人がいました。タクシーで対応したそうですが、そうした突発的なニーズに対しても社協で対応してもらえるとありがたいです。(河原町)

コミュニティバス

- ❖ すいぶん前から「使い勝手が悪い悪い」といわれ続けていますが、あの路線はいったい誰がつくったのですか。その見直しはされたのですか。「検討します」ではないです。儲けることを前提に富士急や箱根登山のプロに委託すれば済む話ではないですか。お役所的な考えはもう止めていただきたい。(岡 野)
- ❖ いまバスは何台走っているのですか。車イスの方も乗れるのですか。先ほど「時間がかかってしょうがない」といわれた方は、駅まで遠回りのルートのように乗られたのでしょうか。私はそんなにかかりませんでした。(岡 野)
- ❖ 巡回型とは別に、北から南へのお買い物専用バスなど、週に 1 回でもできませんか。(岡 野)
- ❖ マックスバリュと交渉・タイアップして、そういう送迎バスを出してもらうことはできませんか。移動販売もいいのですが、やはり出かけて実際にいろいろ見比べて買いたいです。(岡 野)
- ❖ 私はいま自分で車を運転して買い物や病院へ行けますが、80 歳を過ぎたら免許を返納しようと思っています。町のコミュニティバスはいま無料ですが、1 回 100 円払ってもよいので新松田駅や足柄上病院まで巡回してもらえませんか。そういう話は以前から出ていますが進んでいません。何がネックになっているのですか。(上 島)
- ❖ 巡回バスについては、松田町が大井町とともに先行してやっています。開成町は絡まないのですか。いま、タクシーを呼ぼうにも電話に出てくれません。(上 島)
- ❖ コミュニティバスは杖をついている人は乗れない感じです。母親の場合、介添えしてもらわないと乗れずバス停からも遠いので、何とかならないでしょうか。(河原町)
- ❖ 多摩ニュータウンなどもいま高齢化してたいへんだとの話を聞きますが、人が戻って来ない理由はやはり足だと思えます。高齢になると車がないと動けません。

- 🍀 ここ（みなみ）は利便性が悪いのです。巡回バスのバス停に、高齢者が座って待つことができるベンチがあるといいと思います。（みなみ）
- 🍀 今後人口が減っていくのであれば、地区内をグルグル回る無人のバスがあればいいと思います。（みなみ）

情報発信・広報啓発

- 🍀 資料中、地区ごとの要介護認定率が出ていますが、下延沢が高い要因は何でしょうか。若い頃どんな仕事に就いていたかによって変わってくるかもしれません。また、65歳以上を一括りとするのではなく、前期後期で分けてみるのも一考です。（下延沢）
- 🍀 地区敬老会などではゲストを招いて余興を行うのですが、そういうところに出演してもらえる団体を探すのがひと苦労です。社協からそういう団体なりのリストを含めた情報提供があるとありがたいです。（円 中）
- 🍀 福祉サービスや制度を意外と知らない人が多いように思います。社協からもっと情報発信してもらえるとありがたいです。サービスを利用することに抵抗がある高齢者は多いです。（円 中）
- 🍀 高齢者のなかには、まだ介護を必要とせず元気におひとり暮らししている方もおられます。そういう方々が安心・安全に暮らせるよう、社協では介護予防やフレイル対策にもっと力を入れてほしいです。そうした方へのサービスをもっとアピールしてください。（上 島）
- 🍀 社協の存在が正直よく分かっていません。何をしてくれるところなのか。子どもが今年の夏に社協が行う車いす体験に参加して、「ああそういう啓発活動もされているんだ」と知りました。組長の立場からすると、社協は赤い羽根募金のような集金ばかりしている印象があります。私のところはまだ子どもが小学生で親は80代ですが認知症が出始めています。両方をケアしていかなければいけないなか、困ったときにどこへ相談したらいいのかわかりません。社協が身近に感じられるようなPR、例えば「できることリスト」などのパンフレットがあると組内の方へもお伝えしやすいです。（河原町）
- 🍀 買い物代行や庭の植木剪定など、介護保険でできないところを有償で請け負うサービス・業者がいま増えています。どこに頼んだら—というのが私たちはいちばん迷う部分なので、そうしたものを分かりやすく紹介したものがあるといいなと思います。（河原町）
- 🍀 情報を入手するために、フェイスブックやインスタグラムを日頃活用されている方はどれだけおられるでしょうか。高齢者ではほとんどおられないのが現状です。その人にあった情報発信をお願いします。（河原町）
- 🍀 資料をみると河原町は40%近い高齢化率であり要介護認定率は21.9%となっていますが、単に65歳以上をひとくくりとするのではなく、前期・後期と分けるとまただいぶ違ってくると思います。また、要介護認定率が高いことは必ずしもよくないことではないと思います。早いうちから介護サービスを積極的に使って、それ以上悪くならないようにしていく—というのも制度のあるべき姿といえます。一概にこれが高いからどうだ—という議論は間違った方向にいつてしまうのではないのでしょうか。（河原町）
- 🍀 いま町ではラインでいろいろな情報を発信しています。社協でもああいうかたちで、「他の地区ではこんなことをやっているよ」等の情報をラインで流していた

だけとありがたいです。回覧が回らなくても情報が簡単に入手できるような環境をぜひつくっていただきたいです。
(中家村)

❖ 社協は広報紙を発行されている以外に、年に一度組長会議の際に来てもらって会のPRを含め説明をされていますが、ここ数年はコロナ禍のためできていなかった経緯があります。実際社協会費を集めるのは組長なので、会員募集月間前の組長会議にタイミングを合わせてできるとよいと思います。
(下 島)

❖ 今日の資料のなかで15歳から64歳までが生産年齢人口となっていますが、このなかには高校生や大学生も含まれています。それを除いた数字は出せますか。それら学生は実際町にはいないと思うので。
(パレットガーデン)

❖ みなみ地区がこれから高齢化していくなかで、いまは1世帯3人いる一となっていますが、これからは自分も含めてひとり暮らしが主流になっていくでしょう。実態としていまこの地区にひとり暮らしの方はどれくらいおられるのですか。
(みなみ)

❖ みなみの場合、子どもが糊・架け橋となって各世帯・世代間をつないでいます。他の地区は昔ながらのおつきあいが核になっているところもあるでしょう。人と人をつなぐために何を使っているのか、何が効果的に働いているのか—という指標も欲しいです。
(みなみ)

その他

❖ 自分はフレイルサポーターをしています。フレイルチェックなどがもうちょっと浸透すればいいと思います。社協としてフレイルサポーターと何か協働してやる等がいまのところあまり感じられないのですが、今後の展開の予定等あれば教えてください。
(中家村)

❖ 社会福祉協議会という名前が硬く、とっつきにくいイメージがあります。社会福祉協議会という正式名前はあってよいので、もっと柔らかくみんなが親しみをもてる名前があってもよいか—と思います。
(下 島)

❖ 私は自分の親が車イスの貸し出しやデイサービスで社協にお世話になった際、初めてその存在を知りましたが、とてもありがたかったです。特に車イスなどは一日何十円で借りられたので、会員になっていてよかったと思いました。一般住民からすると、社協とは確かに何をやっているか分からない印象があります。
(下 島)

❖ いま、町へ高齢者に関する情報を民生委員へ提供してもらえるよう求めています。個人情報の問題はありますが、現状ではあまりに情報が欠けていますので、社協も後押ししてもらえるとありがたいです。
(下 島)

❖ 転入されてこられた方の情報を個人的には知っていても、民生委員として勝手にアクションを起こし訪問するわけにはいきません。社協と町とがもっと情報共有し連携を深めてもらえるとありがたいです。
(下 島)

❖ このグラフ（地区別高齢化率と要介護認定率）からは課題をみようとしたときに見づらいです。土地の分布の関係、地理的なマップを入れていただけたらありがたいです。私は昔からの人間ではないので、岡野はどこにあるのか—などが分かりません。開成町のなかの位置関係が頭に入っていないので。
(みなみ)

❖ 数字のマジックがあるな—と思ったのは、例えば岡野さんなどは母数が少ないなかでの率なので、統計数字としては好ましくないでしょう。課題としてみようとしたときに、地政学的にどの位置にあるからどうなんだという点がみえてこない、地区ごとの課題はみえづらいです。
(みなみ)

2) 町（役場）へのリクエスト

移動手段

- 自分もコミュニティバスに乗ったことがありますが、時間がかかり過ぎてもう乗りたくないと思いました。それより昔走っていた富士急の路線バスのようなものを町で復活してもらえたらーと思います。（岡 野）
- 免許返納した人の移動手段がありません。タクシーを呼んでも来てもらえず、外へ出ることができません。どうしたらいいか、町は真剣に考えてもらいたいです。（岡 野）

地域振興

- いまのこの状況がいったいあと何年続くかーです。続かないと思います。将来的なことを町はもっと真剣に考えてほしいし、こちら（岡 野）にもっと目を向けてほしいです。（岡 野）
- 人口が減っているからこちら（岡 野）に目を向けてもらえないという、すごく悪循環になっています。こちらのほうは観光と町はいいんですが、実際住んでいる私たちにとって他所の人が来るとゴミを捨てられたり、庭の花をとっていかれたり、ジロジロみられたりーということがあるのです。実際このあたりは観光しかないのかも知れませんが、もう少し何かいい案はないものでしょうか。（岡 野）
- 岡野は町から相手にされてないのです。ヘソを曲げるのももっともです。（岡 野）
- バスの件も含めて私たちは不満だらけですが、その不満をぶつけても一向によくならないではないですか。そうしたらもういわなくなりますよ。世帯は増えず人口は減るいっぽうであるにも関わらず、ほったらかして町は何も手を打たないではないですか。都市計画を変えるくらいの気概が町にないともうやっていけないですよ。（岡 野）
- 都市計画の見直しを含めてもっと行政にはしっかりしてほしいし、もっと岡野に目を向けてほしいです。（岡 野）
- 「何をいっても無駄だ」という人もいますが、やっぱりいなければ届かないし、気づいてもらえないからー。ここに住んでいるからこそ、不便なことなど分かることがあります。（岡 野）
- 町との話し合いがもう少しあったほうがよいと思います。先日、町との懇談会がありましたが、出席者があまりにも少ない。もっと大勢集まって、「岡野をどうしてくれるんだ」という声を届けなければいけないでしょう。（岡 野）
- 岡野は北部でとても離れているので、駅周辺ばかり栄えてこちらは取り残されている感覚を皆さんもっておられます。もう少しこちらに目を向けてくれてもいいのではーという気持ちは正直あります。実際もっと年をとったらここから出てしまおうかーとも考えてしまいます。（岡 野）

自治会支援

- 自分の組も以前は食事会や総会をやっていましたが、コロナ禍以降パタッとやらなくなりました。日頃のおつきあいもだいぶ薄れてしまった感があります。復活したいと思うのですがー。町がモデルケースのようなものをつくって、働きかけてくれるとありがたいです。そうしたことはなかなか自発的にはできないので、町や社協が主導してもらえるとありがたいです。（上 延沢）
- 個人情報の提供含め、役場と自治会との情報共有は大事で、連携を密にするよう見直していかなければいけないと思います。（円 中）
- 役場職員はもっとカウンターの外へ出て、地域の実情を知ってほしいです。そうでないとほんとうの意味での行政はできないと思います。一緒に考え、ともに汗を流す姿勢がほしいです。（円 中）
- 地区敬老会開催にあたり 75 歳以上の方を調べようにも、町は「個人情報だから」と開示してくれませんが、他の市町村では自治会や民生委員に積極的に情報を開示して動きやすくしているところもあります。他の市町村でできて、なぜ開成町ではできないのですか。（上 島）

災害時要支援者登録

- いま円中ではひとりの要支援者にふたり支援者がつく体制でやっていますが、周りをみても老々介護というか、いつ支援する人が支援される側になってもおかしくない状況です。円中は今後高齢化がかなり急速にすすむと思うので、ふたりつくのではなく、もう組で面倒みたらどうですか。マンツーマンディフェンスではなくゾーンディフェンスのイメージを考えてもいい時期かもしれません。（円 中）

その他

- 11 月に福祉部で町のバスをお借りして丹沢湖へ紅葉狩りに行くのですが、バスを借りるのに手続きが難しくたいへんです。対象が高齢者なので何とか簡素化できませんか。（宮 台）
- 町内に転入されて来られた方のうち、75 歳以上の方がおられるお宅へは町からの要請により「ようこそ訪問」ということで私たち民生委員が訪問するのですが、それはあくまでひとり暮らし等の方であり、家族と同居されている方は除かれます。同居されていても介護等のニーズはあると思うのですが、そうした情報は町として出せないのでしょうか。（下 島）
- 共助だけでは無理なところもあるので、やはり公助として施設等インフラを都市計画として考えてもらいたいです。（みなみ）
- 地区内のあちらこちらにあじさいが植えられていますが、剪定が行き届いておらず見苦しいです。何とかならないでしょうか。（みなみ）



4 その他

1) 地域のいま

地域特性

- 岡野は非常にコンパクトな地域で皆顔見知りなので、犬の散歩をしていても声を掛け合ったりします。民生委員さんも高齢の方のお宅をまめに回ってくださっていて、福祉部長の私とは会えば情報交換もしています。（岡 野）
- ここから出ていった若い人たちも不便だから戻ってくることはありません。だから岡野は平均年齢が毎年ひとつずつ上がっていくのです。（岡 野）
- 地区を見渡すと、ひとり暮らしの高齢者宅は10軒以上あるのです。これは近い将来問題になってくるでしょう。（岡 野）
- 岡野の高齢者はみなプライドが高いから、「介護を受けたい」などと自分からはなかなか言い出さず、「周りの世話にはならないよ」という人ばかりのような気がします。（岡 野）
- 例えば、この公民館の掃除を含めた維持管理もいまは自治会員でできていますが、高齢化に伴ってだんだんできなくなってくる兆しがあります。地域にはOKクラブという団体があり、公民館の庭木の剪定などもしてもらっています。会員は高齢化しているものの、幸い次の世代を担う比較的若い人も入ってもらっています。（金井島）
- 岡野と金井島の有志で構成されているOKクラブは、30代から60代まで男性ばかりの集まりですが、そういう集まりがあるのは地域の強みです。（金井島）
- 岡野と金井島は異母兄弟です。子ども会も一緒だしー。自治会としては別ですが、何かやるとなると小さいから合わないとか駄目だということで、以前の運動会も赤組として同じチームで出ていました。（金井島）
- 宮台はどうしても大通りの上と下で分断されてしまっている感じがします。道がブロックしているのか、普段からあまりおつきあいがありません。（宮 台）
- 以前から住んでおられる方は、隣近所あまり余計なことはせずともそれぞれが気にしつつ、近所づきあいができていると思います。新しく来られた方はなかなか難しいでしょう。（上 島）
- 河原町の場合、Jの会というボランティア団体があり、高齢の方も入ってかなり積極的に動いています。一概に年齢で切るというより、身近なところで何か社会に貢献できることをお互いにみつけて、少しでも生活しやすい環境をお互いにつくっていくことが大切です。（河原町）
- パレットの場合、管理組合があって自治会があります。例えば隣の部屋の方が具合が悪くなったとき、どちらに連絡すればいいのか分かりません。以前そういうことがあり、ドアを開けられないので隣の家からベランダ越しに窓を割って入ったーということがありました。ひとり暮らしの方で知らず亡くなっていることがあるかもしれません。そういうときに備えて連絡のルールを決めておかないといけないでしょう。管理組合は連絡先の名簿をもっているかもしれませんが、自治会では分かりません。そこが問題です。（パレットガーデン）
- 結局、マンションなのでエレベーターで会うだけです。名前も知らず「あの人はどこの人？」という感じで、あいさつはするけれど話はしないです。（パレットガーデン）

みなみは確かに子どもたちが多く、高齢者が少ない—とのデータはあるのですが、最大の特徴は何かというと、お互いを知らないということです。この10年のうちにみな他所から入ってきた人たちばかりなので。確かに糊となっているのは子どもなのです。隣近所はそれなりに顔見知りにはなりますが、くっつけられるのは子どもだけなのです。芋ほりなど子ども対象のイベントを多くやっているというのはそういう意味があります。悩ましいのは大人どうしが幼少時代からの知り合いではない、過去を知らないということです。「あいつは昔こうだった、ああだった」というのが全くないのがひとつ大きな特徴で、それがけっこう弊害なり難しさにつながっている部分はあります。そういう地区は普通ないですよ。

(みなみ)

この自治会ができた7~8年前、ある方から「30年後40年後どうするのですか」と言われました。私は「いま立ち上げるのに精いっぱいなので、そこまで考えられない」と答えたのですが、確かにいまはいちばん多い子育て中の世代が30年40年経ったらみな揃って一気に60代70代となります。しかもみな一戸建なので、子どもが巣立ってしまった後は老々団地ではないですが、戸建てのひとり暮らし高齢者ばかりの地域となります。それを防ぐ唯一の策は、いま育てている子どもが「ここは僕たちのふるさとだ」と思ってくれて戻って一緒に2世帯で暮らすとかしないと絶対そうなります。

(みなみ)

みなみ地区のメリットというのは、すぐ近くに新しい小学校があるということ。いま人口が増えていますが、30年後を考えたとき、ここには歴史的な神社やお祭り、観光地や公共施設もありません。町のイベントも北部や中央に偏っていて、ここは何もないのです。ここができた当初は「何かイベントをつくって頑張ろう」と土地管理組合と協力してやっていこうとしたのですが、コロナ禍があり組合もなくなり、いまは立ち行かなくなっているのが現状です。30年後を考えたとき、かなり課題がある地区だと思います。

(みなみ)

自治会活動

いま自治会に携わっていますが、私は自分の分身をつくり後進に上手くバトンタッチできるよう、常に意識しています。コミュニティやボランティア活動は、やはり楽しくないと駄目だと思います。楽しくないとどんどん離れていってしまいます。

(金井島)

自分の組では、せめて3月の組長引き継ぎのときは顔合わせしようとしています。

(上延沢)

自分の組では、以前は一堂に集まったこともありましたが、いまはクリーンデイの後に組長交代のあいさつがあるくらいです。近所の方とは顔を合わせますが、少し離れていると同じ組でもほとんど会うことはありません。

(上延沢)

うちの組は9世帯、ほぼ同時期に転入してきた方ばかりです。障がいをもつ方の情報も入っており、みなで援助しようとなっています。子育て世代が多いせいか、クリーンデイも一軒ひとりではなく、子どもたちも参加してくれます。

(上延沢)

うちの組も集まるのはクリーンデイのときくらいです。個別に交流やおつきあいはあります。

(上延沢)

うちの組も以前のようにみなでどこかへ旅行に行くなどということは難しく、もっていません。みながそれぞれ暮らしているなかで、組として何が必要なのかを考えます。

(上延沢)

コロナ禍でもろもろの行事がなくなりましたが、それを取り戻すのはたいへんで

す。正直めんどくさいというのはあります。昔は正月以外に年 1～2 回組内で集まっていたのですが、もう 10 年以上ありません。いまはクリーンデイ時に「次の組長は誰々です」と紹介するのみなので、さすがにこれでは不味いと思います
(上延沢)

❀ 5 類になったとはいえ、まだコロナは終息したわけではないので、組の新年会などはどうしてもブレーキがかかってしましますが、せめて年にいちどくらいは顔を合わせたいものです。
(上延沢)

❀ つながりがなくなったのは高齢者だけではありません。私の組は以前はお花見や正月の懇親会などをやってつながっていましたが、いまは全くなくなっていました。
(下延沢)

❀ 今回、防災訓練のときにラインを使って情報伝達訓練を試行的にやってみました。スマホを持っていない方への対応には課題もありますが、これからの時代は組のなかでもそうしたことを導入していく必要があるでしょう。
(下延沢)

❀ うちの組で防災訓練終了後にアンケートをとったところ、「防災訓練自体は大事なので出たいと思っているが、毎年内容が同じ。何か目新しいものがないと今回はいいかーと思ってしまう」との声がありました。人を集めるためには、よほどアイデアを積まないと出てきてはくれません。提案ですが、自治会長の諮問機関のようなものをつくり、推薦で集まった方々に知恵を出し合っていただくのはどうですか。
(下延沢)

❀ 役を長くやっていると、次の方をみつめるのがたいへんです。
(下延沢)

❀ 気になるのは、歳をとって自治会を止めてしまう人がいることです。自治会館の清掃ができないとか組長が担えないなどの理由ですが、これに何かメスを入れていかなければいけないでしょう。
(円 中)

❀ 自治会も昔は葬式があったからまとまりがあったのですが、葬式はなくなるし、広報も戸別配布となり、そうするともう「自治会の役割とは何なんだ」といま問われてきている状況です。皆が集まれるものといえば自治会館の清掃だけーというのも寂しい話です。そのへんのところも考えていかなければいけないでしょう。
(円 中)

❀ いま自分の組だけみても、抜けていく人が多いです。抜けて日頃あまり会わない人だとどうしても関心が薄れてしまいますので、いざというとき困るなという気がします。先日の自治会館の清掃時も、自分の組は半分くらいしか出てきてもらえませんでした。
(円 中)

❀ 私は自治会行事にはほとんど参加していますが、出てこられる人の顔ぶれがほとんど同じです。もう少し若い人にも出てきてほしいのですがー。
(円 中)

❀ 私は転入してきた翌年に「組長の当番です」といわれ、とても戸惑いました。離れて住む娘からは「組っていったい何のメリットがあるの?」といわれました。かように若い人にとっては自治会や組に入ることに抵抗があるのでしょうか。
(円 中)

❀ 組長や役員の仕事の効率化を図っていかないといけません。次期役員候補者宅を回っているのですが、ほとんど門前払いの状況です。いま円中で団塊の世代である 75 歳の方は 35 人くらいおられますが、10 歳下の 65 歳の方となるとちょうどその半分の 16～17 人しかいませんので、もう役員を担ってもらえる人がいないのが実情です。また、組長を担った後に自治会を抜けていく人も多いです。組長の負担も軽くしながら、全体的に軽くしていかないと、もう役員の担い手がいなくなってしまうので考えていかないといけません。
(円 中)

自治会を辞める人が増えています。自分の組は以前 8 割の方が入っていましたが、いまは 7 割です。若い人は特に「メリットは何だ」とよくいわれます。いざ災害が起これば必要性を感じてもらえるのでしょうか、昔からの隣近所のおつきあいがとても希薄になっていると感じます。新たに転入されてきた方などは、関わりたくないようなイメージであいさつもしません。高齢になって辞めていく方もおり、そうすると自治会員数もだんだん減っていきつてしまいます。クリーンデイに自治会員は出ますが、入っていない人は知らんぷりです。自治会に入って何かメリットを感じてもらえるようなことをしていかないと若い人は参加してもらえないでしょう。(円 中)

組長手当を増額することも一考です。いまは組長を担えるけれど、あと 10・20 年後に回ってきたときは年齢的にもうできないので、いちど組長をやってから自治会を抜ける人が多くなっています。自治会員のメリットを何かつくらないといけないですね。(円 中)

「組長になるとたいへんだ」との声がありますが、いまは広報紙の配布もなくなったので以前と比べると負担もそうとう減っているのではないですか。(円 中)

「組費を集めに回るのがたいへんだ」との声が若い人から多く聞かれます。いまはそういう時代なのでしょう。やはり時代に合ったやりかたをしていかなければいけないですね。(円 中)

新たに転入して来られた方は、「自治会費を払いたくない。役員をやるのが嫌だ」と自治会に入らないケースが多いです。そうすると回覧が回らず、地域の行事などは分かりません。(宮 台)

自治会の加入率はいま 7 割くらいです。入ってもらえればつながりができるのですがー。普段の生活はいいのでしょうか、いざ災害が起きたとき、知っているのと知らないのとでは動きが違ってきます。(牛 島)

上島でも新しく転入して来られた世帯が多くなってきたものの、自治会に入る方は少数です。(上 島)

河原町は高齢化がすすんでいるなーと感じます。特に自分が住んでいる町営住宅などは高齢化率がもう 60%を越えているでしょう。そういうなかで、今後組の存続をどうしていったらいいか悩んでいます。来年度以降、組としての運営ができなくなってきました。(河原町)

自治会として一昨年に続いて組の再編などはありません。河原町の場合、全域が市街化区域にも関わらず新しい家が増えず、毎年そのままひとつずつ年をとっていくという状況なので、そのへんはできる範囲でやっていくしかありません。(河原町)

以前行っていた夏祭りは、ここ数年の猛暑で命の危険もあるため秋開催に変えたのですが、そうするといろいろなイベントが秋に集中するため、こんどは日程調整がたいへんです。そういう意味では取捨選択が必要になってきます。夏のイベント開催はもうほぼ不可能です。だから、みんなで力を合わせてできる範囲のことをできる季節にやっていくことが大切だろうと思います。コロナ禍は否定的に捉えがちですが、ある意味いろいろなことを再度見直してみる機会になったのではないのでしょうか。(河原町)

いま地域の諸々の活動を引っ張ってくださっている方が今後 10 年すると皆さん全員 80 代 90 代となります。今後の共助をどう考えるかーというときに、前提となるサロンをはじめとしたコミュニティをどう形成していくかは大きな課題だと

思います。いまのままを肯定して「既存のものに入ってくれ」ではなかなか入ってきてもらえません。だとすれば、組長さん方に「どういうことであればもっとみな集まれると思うか、何ができるか」を伺ったほうがいいと思います。

(中家村)

- 管理組合は強制なので全員入っていますが、自治会は加入が任意なので自分の組は半分の世帯しか入っておらず、みな退会してしまいます。敬老会をしようと思っても75歳以上の人が何人いるか、自治会では分かりません。

(パレットガーデン)

- いまは町の広報紙もポストに自動で入るから、自治会に入るメリットがないのです。組長の当番が回ってくると「辞めます」となる人が多いです。

(パレットガーデン)

- 自治会加入は任意とはいえ、いちばん多いのは「私は高齢だし、ひとりなので自治会を抜けます」というケースです。ほんとうはそういう人こそ入っていただいて登録してもらい、みなで見守るのが理想だと思うのですが、組長の仕事量や全体的に高齢化がすすんでいることからそれも難しくなっています。せっかく管理組合があるので、そこと絡めて考えていくこともひとつです。自治会に入っていない人は自治会の役割を理解しようとせず、何かあるとすぐ管理組合へとなるのですが、こっちあっちと分裂するよりは一緒にやったほうがいいと思います。

(パレットガーデン)

- 結局、自治会長2年組長1年で交替してしまうので、「その期間だけやっていればいいや」となってしまうのでしょうか。自治会長が替わるときはたいへんだと思います。

(パレットガーデン)

- 他の地区と異なり若い人たちは自治会に入ってくれるのですが、逆に年配の方は以前住んでいてところのしがらみが嫌で越してこられた方が多く、自治会に入らない方がおられます。孤立化を防ぐ意味でもそういう人たちとどうつながっていけばよいか、悩むところです。イベントをやっても、出てこられるのは若い世帯ばかりです。

(みなみ)

- いま、自治会加入率は約6割。戸建ての方は8割以上入ってもらえますが、意外と多いアパート等の方はやはり入ってもらえません。

(みなみ)

民生委員活動

- 民生委員として対象者のお宅を毎月訪問していますが、例えば脳梗塞でねたきりになっている方などへ「お元気ですか」とはいいにくく、どう声かけたらよいか悩むことがあります。

(上延沢)

- 民生委員として地域を回っているとき、近所の方から「ここの人はこうだよ」等いろいろ教えてもらえるのでとてもたすかっています。

(円 中)

- 民生委員として、町防災訓練のときには組長の皆さんにたいへんお世話になりました。民生委員3人いても、なかなか行き届かないため、組内のことは組長さんが気にかけていただいて、何か気になるようなことがあったら私たち民生委員でも自治会の役員でもいいので連絡いただけるとありがたいです。いちばん気になるのは、やはりひとり暮らしの高齢者です。

(中家村)

- 民生委員としては、組長さんに近所の方へちょっと声をかけてもらおうとか、回覧を回すときにポストのなかに郵便物が溜まってないとか、そんなことを気にかけてもらえるとうありがたいです。

(中家村)

- 資料6ページにある「援助を必要とする人」を私たち民生委員は探しながら動いてい

ます。私たちとしても、この資料にあるように隣近所や組長の皆さんに声かけや見守りをぜひお願いしたいので、民生委員と組長ともしっかり連携できたらよいと思います。（下 島）

老人クラブ活動

- ❁ 老人クラブでは子どもたちの登校見守りのほか、友愛チームの活動としてひとり暮らしの会員宅を数ヶ月にいちど手土産を持って訪問していますが、けっこう喜ばれています。（上 延沢）
- ❁ 老人クラブとしてサロン活動などもやっていますが、ひと頃より参加者は増えつつあるか—という感じです。デイサービスなどが普及したせいで参加できない会員もいます。サロンに来ることが体力的に難しい会員宅を訪問することもあります。足の不自由な方などはどんな立派なサロンをやっても来ることは叶いません。デイサービスは送迎もありお風呂も入るのでいいのですが、老人クラブでは送迎はできません。（下 延沢）
- ❁ 老人クラブは会員も減って会費収入も減ってきているなか、何とか皆さんに魅力が伝わるようサロン活動やバス旅行などをやっていますが、お金はかかります。福祉部とも連携していけたらいいです。例えば、従前のバス旅行を三世代福祉バス旅行のような名称にして企画してみることも一案です。（下 延沢）
- ❁ 老人クラブの誕生会では、万が一に備えて去年からボランティアの看護師に来てもらうようにしました。（円 中）
- ❁ 介護保険でプランをつくるケアマネージャーがいますが、利用者とその家族のことしか頭になく、例えば老人クラブの友愛訪問活動など地域のことはまったく分かっていません。共助との関わりがもてていないので、私たち老人クラブとしてはどこまで入っていったらいいのかが分かりません。（円 中）
- ❁ ひとり暮らしの高齢者がいけばん気がかりです。いま、地区の高齢者で老人クラブに入っているのは全体の1/3以下となってしまっています。元気であればいいのですが、そうでなければ会のたすけあいとしてバックアップすることができません。もう少し福祉部と情報交換ができればいいです。向こう三軒両隣にご近所どうしてたすけあえる環境になることを望みます。（牛 島）
- ❁ 老人クラブは辛うじてあります。会員自らが地区敬老会をやっているような状況なので、存続を含めて今後どうしていくかを話し合う予定です。草刈り等労働力を求められますが、動ける人が少なく車を運転しなくなった人もいて、今後どうしよう—というところです。（榎 本）
- ❁ 私は老人クラブの女性部長を務めましたが、82歳でいちばん年下でした。自分の年齢で90を超える方のめんどろをみながらサロンをやるのはかなり負担です。集まる方は楽しみにしてくれていますが、テーブル設営やお弁当の手配などをしなければならず、準備が厳しくなってきました。（榎 本）
- ❁ 老人クラブの友愛チームで会員宅を訪問していました。本人は来てもらうと嬉しいのだけれど、家族が嫌がり「遠慮してほしい」とのことだったのでいまはやっていません。（榎 本）
- ❁ サロンの会場設営などを担う役員は、歳を重ねたせいか負担が大きく、煩わしささえ感じます。60代70代の方がなかなか入ってくれません。（榎 本）

子ども・子育て

-  金井島がまだコミュニティが維持できているのは、やはり子どもの頃から知らず知らずにそうした風土が育成されているからです。子どもは隣近所どうしてよく遊んでいます。だから何かあったときは共助という動機が生まれるのでしょう。
(金井島)
-  金井島の子ども会には面白いルールがあり、会長になるのは地区ごと順番が決まっています。それはもう与えられた義務なり使命だと子ども会に入った瞬間に分かっていて、「自分は何年後に会長をやるんだ」とある意味言い渡されているのです。こういう役員というのは急にいわれると驚きだいたい拒絶されますが、動機づけしながら予め依頼しておくとい概ねスムーズに運びます。自治会役員の選考も同様です。
(金井島)
-  割合からいうと宮台は子どもたちが多いです。子ども会はありますが、育成会は存続が厳しくなっています。
(宮 台)
-  宮台南部の子どもの通学風景をみていて、道幅が狭くけっこう距離もあるので危険だなと思います。見守り隊がいるからいいのですがー。
(宮 台)
-  町の子ども会がなくなってしまったいま、宮台の子ども会は自治会に属しているため自治会の活動しかなく、独自の活動はあまりありません。
(宮 台)
-  「役員をやりたいくないから子ども会を抜ける」という方が多いです。自治会としても役員の負担を軽減できるようにしていかないとはいけません。
(宮 台)
-  牛島には阿波踊りや夏祭りなどで子どもを指導してくださる方がたくさんおられるので、子どもたちの参加が多かったように思います。
(牛 島)
-  太鼓の練習をみていると、子どもと知り合いになります。世代を超えて話をするのはいいものです。
(牛 島)
-  自治会に入っていないと回覧版は回りませんが、育成会は情報をラインで共有しています。
(牛 島)
-  榎本には会員 10 数人ですがまだ子ども会があります。およそ半分くらいの加入率で、「役員をやりたいくないから入らない」という家庭が多いようです。吉田神社祭礼時の神輿やどんど焼きは子ども会中心でやっています。
(榎 本)
-  子ども会は年々減っていて、いま町内で存続しているのは下島とあと数地区のみです。40 名ほどいる会員のなかにはひとり親家庭のお子さんや障がいをもつお子さん、外国にルーツをもつお子さんもいます。会員の約 4 分の 1 は自治会に入っていない。悩みとしては役員の担い手がおらず、役員決めになると「抱えないので辞めます」といわれてしまうことで、とても残念です。子どもの都合で辞めるのではなく、大人の都合で辞めざるをえなくなるのはおかしいと思います。子ども会に入ることでの異学年とのつながりや異世代との交流が図れます。自分の子どもなどはそうしたことを楽しみにしているし、地域の人とつながりがもてるので今後も存続していったほしいと思っています。そこで自治会にお願いしたいのは、子ども会主催によるどんど焼きの見直しです。他地区では自治会主導でやられているところもあり、必ずしも子ども会で担わなければいけない行事ではないようです。受験を控えている家庭などは特に難しく、役員の担い手不足からも子ども会主催で続けていくには無理が出てきています。地域の皆さんの健康を祈願するという意味で、どんど焼きはもう子ども会主催ではなく、自治会の他の部でやっていただくなり、自治会主催でやってもらえませんか。
(下 島)
-  歳神様を見送る火祭りとしてのどんど焼きは、歴史的にその主人公は子どもたち一との成り立ちがあったのでしょう。当日のご祝儀はすべて子ども会の収入にな

るということもあります。(下 島)

💧 どんど焼きについて、子ども会からするとご祝儀は要らないし、子どもがメインといわれますが、いまはその親が何とか時間を捻出して準備から片付けまで対応しているのが現状です。また、どんど焼きに来られるのは下島の方だけではありません。隣の地区からも来られるので、それら方々を6人の役員だけで対応するのはもう無理です。子ども主体のラジオ体操や親睦会、神輿はやりますが、せめてどんど焼きについては子ども会で一と拘らず、自治会の地域行事にすると決断いただきたいです。そうでないと子ども会終いの話が現実となってきます。もう何年も前から言い続けていますが、一向に改善されません。(下 島)

💧 どんど焼きの負担については子どもをもつ親のニーズとして切実な問題なので、社協も力を貸してもらえるとありがたいです。私たち子ども会の役員はこの問題については覚悟をもって臨むので、自治会も覚悟をもって臨んでください。

(下 島)

💧 自分も含めていまほとんどが共働きです。子どもが5~6年生になると地域のクラブ活動が盛んになり、そちらで会長などを引き受けると、担い手がどんどんいなくなってしまうのです。打開策としていま考えているのは越境入会です。子ども会がない他の地区で「入りたい」というお子さんを自治会未加入者と同じ扱いで加入できるよう、来年度試行的にやってみようと思っています。そうして分母を増やせば、成り手も増やせる確率が上がるので一。(下 島)

💧 いま、習いごとをしている子どもたちは多いです。高額な月謝を払い、そうした機会を得ていますが、格差が生まれているなと感じます。お金を払える家庭の子はどんどんそういう体験を重ねていきますが、そうでない子はひきこもってしまったりしています。(パレットガーデン)

💧 遊び隊という組織をつくって活動しています。参加費は子どもひとり1回100円ですが、なかにはお弁当を持ってこない子もいます。最近子ども食堂がけっこうできていますが、ほんとうに需要はあるのだと思います。パレットに住む方は比較的稼ぎのある方が多い印象でしたが、お金はあっても子どものお弁当はつくらない、塾にも行かせない家庭などをみていると、悪い意味での多様性を感じます。決して地域ひと括りにはできません。(パレットガーデン)

地域文化

💧 酒田神社のお祭り時には、子ども会と育成会で連携して神輿を出して地域内を練り歩きました。高台病院とあじさいの郷も回ります。ご祝儀もかなり集まったようです。(金井島)

💧 先日「よかったな」と思ったのは、神社の祭典時に6年ぶりに神輿巡回を復活したところ、思った以上に待っていてくださる高齢者が多かったことです。ご祝儀もたくさんいただきました。(下延沢)

💧 どんど焼きもいまは子ども会でなく、組長がやっています。教えてくれる人がいないから太鼓も叩けません。文化祭をやっても子どもは来ません。(宮 台)

💧 10月酒田神社の祭典のとき、5年ぶりに山車を出しました。楽しみにして下さる方も多く、子どもと大人のふれあいになったのではないかと思います。コロナ禍が明け、そうした集まりにみな飢えていたのでは一と思うほどの人出でした。自治会を盛り上げていくためにも続けていきたいです。(牛 島)

💧 どんど焼きは伝統的なものなので、自治会として何か一ということは特別ありませんが、存続できていていいなと思っています。こういう地域行事にできるだけ

出てきてもらいたいと思うものの、子どもたちはいま塾や習い事があって非常に忙しく、それ以外の時間がなかなかとりにくいのを実態です。これはどこも同じでしょう。河原町はまして子どもが少なくなっているのです、よけい難しさはあります。でも親子揃って出てきて協力してくれるので助かっています。

(河原町)

☘ 神社祭典のとき、山車は担いで回るのは暑いので車に乗せて移動しようとしたところ、集まった子どもたちが「担ぎたい」というので実際担いで回りました。昔からの人は追いかけてきて、ご祝儀をくださった方が何人もおられました。

(中家村)

☘ どんど焼きの件は、他地区の情報も入手しながら自治会の次期役員へも伝え、地域ぐるみの課題として皆で議論したいと思います。

(下 島)

☘ どんど焼きは同じ地区内で何ヶ所もやっているところや、やっていない地区もあり、それぞれやり方はみな違います。なぜか下島だけが子ども会主催となっていますが、昔とは時代が違うので状況によって変えていけばよいと思います。

(下 島)

防犯対策

☘ 近所のひとり暮らしの方のお宅に窃盗が入って給湯器が盗まれたことがありました。他にも同様のケースがありましたので、自治会で防犯カメラを設置いただけるとありがたいです。

(円 中)

☘ 防犯カメラの設置はプライバシーの問題があり、個人的には難しいと思います。組内で情報共有し注意喚起しましょう。

(円 中)

☘ 防犯上のポイントとして、庭に石を敷き詰めたりセンサーライトをつけたりすることが有効であり、侵入に5分以上かかりそうな家は犯行を諦めるといわれています。いちばんは周りからみられていることを嫌うそうなので、地域の目は大事です。

(牛 島)

☘ 最近テレビで闇バイトについての報道がされており、NHK など盛んに注意喚起していますが、若者はテレビなど見ていません。みな SNS なので騙されてしまうでしょう。

(上 島)

☘ 最近、闇バイトに関するニュースが多いです。地区内でも横浜ナンバーのトラックなど不審車両をみかけることが多く、私は4回くらいみえています。(榎 本)

☘ 地域で見守るなかで、不審車両などの情報を自治会や警察含めてみなで共有することが必要です。

(榎 本)

☘ 闇バイトについて、高齢者のひとり暮らしが多いから心配です。私の家にも「屋根を直すからー」と男性3人が2回くらい来たことがあります。「施工業者が来るから要らない」と断りましたが、屋根に乗られたらたいへんでした。(榎 本)

☘ 訪問販売等で「何かおかしい」と思ったら、自治会長や役場、警察でもいいので相談できる人が身近にいるといいです。ひとり暮らしの高齢者などは特に心理的に不安になりかねません。民生委員さんもたいへんだとは思いますが、そういう人の聞き出し役になってほしいです。

(榎 本)



2) わたしの福祉観



開成町でもコミュニティの崩壊が始まっており、老人クラブや子ども会がなくなってしまった地域もあります。そうしたなか、地域の福祉・共助をどう維持していくか。その根は同じだと私は思います。ひとつは欧米化であり、もうひとつは個人が豊かになったからです。個人主義により「自分でできるからいいや」と自助の範囲が広がり、子ども会でどこかへ出かけなくても個人や家族で出かけられるから会の必要性を感じない人が多くなっているな—と感じます。でも災害時などいざ—というときは、やはり日頃のおつきあいがものをいうわけですね。

(金井島)

経済的な豊かさと幸せとは相関がありません。ブータンや北欧三国がいい例です。幸福な生活はお金があるからできる—という訳ではないということです。個人主義だけでは足りないものがあるのでしょう。

(金井島)

孤立や孤独というのは、他人事ではありません。2050年には全世帯の半分弱が単身世帯になってしまうとのこと。そうすると孤独死なども増える可能性があるのです。どうやって防いでいけるか—という、やはりコミュニティのなかで皆でふれあう時間・機会を増やしていったって、顔を覚えどこに誰が住んでいるかをある程度皆で把握するようなくみが必要だと思います。ゆるやかな見守りというのは大切です。日頃から周りとの良好な関係を築いておきたいものです。

(金井島)

交通の話だと、恐らくあと10年後くらいには町がオンデマンドに近いバスを運営するかたちとなるでしょう。その代わりお金がかかるから税金も増えることになりますが、私はそのためなら町民税を上げてもいいと思っています。

(金井島)

大島が噴火したとき、数時間のうちに全島民が無事避難できたのは、「あいつがいないぞ」等、隣近所が声かけあって避難できたからだといいます。何かあったとき、あっては困るのですが、お互い顔を知っていたたすけあうというのは人間、必要なのでしょう。そういうのが本来DNAのなかにあるのでしょうか、それを呼び覚まして維持していくためには、世代を超えた交流の場をつくっていくことが必要です。夏休み然り、OKクラブのようなコミュニティ然り、老人クラブも然りです。金井島については、いまの横のつながりを維持するような施策を継続していくことが今日の結論かな—と思いました。

(金井島)

自分は以前、弱い人をたすけるのが福祉だと思っていましたが、生活していくことが福祉なのだと気づきました。

(牛島)

私は80を越えていますが、身体の調子の悪いとき、誰かに頼っていいのか迷います。みっともないと思ってしまいます。2ヶ月ほど前、夜中に腹が痛くなってどうしようもなくなったとき、迷った末に救急車を呼んで上病院へ運ばれました。幸い処置が済んで帰宅する際、タクシーがなく、パジャマ姿で自宅まで帰ったことがありました。私たちの年代は、なかなか素直に「たすけてください」とはいえないものです。生活全般に支障があるわけではないので今のところ何とかなっているのですが、あと何年か後には歩けなくなるでしょう。そのとき、どんな気持ちの持ち方をすればいいでしょうか。

(上島)

❁ 福祉はなかなか自分ごととして捉えられません。そこをどう改めていけるか—でしょう。ご近所の方と「おはよう」「こんにちは」と挨拶を交わすなかで、「こんなことに困っている」といいあえる環境になればより安心感は増すと思います。

(上 島)

❁ 私たち以前から住んでいる人は回覧をよくみているし、近所であったときにその話をするなど意外と情報交換をしています。新たに越してこられた方は周りとの関係が薄い方が多いです。家庭や地域のありかた、社会が大きく変わってきているなか、私たちもそちらに目を向けて活動していかなければいけません。「いままでこうだったから—」というのは違うと思います。なかには「なぜ私たちが社協の集金をしなければならないんだ」という方もいます。私たちが昔からあたりまえのようにやってきたことでも、そう捉えない人も出てきています。住民も組長もいろいろな考えの方がいると感じます。

(上 島)

❁ 自助と公助、共助のほかに「近助」ということばも加えたいです。災害が起きたときにはやはり隣近所がいちばん頼りになります。そのためには日頃から馴染みのある関係性を築いておきたいものです。

(下 島)

❁ 私たち若い世代は、今後はもう AI や IT 技術を使って何とかしていかなければいけないなと思っています。先ほどの見守りにしても、センサーなどを活用していくことになるでしょう。

(みなみ)



◎上 島

3) チョットひとこと



-  岡野はあと5年10年したらどうなってしまうのでしょうか。(岡 野)
-  私は高齢のひとり暮らしですが、まだ元気に歩けるので週2回くらいマックスバリュまでひとりで買い物に行っています。3回のうち1回くらいは居合わせた知り合いに車に乗せてもらい帰ってくることもあり、ありがたいなと思います。(金井島)
-  積極的に外へ出ていくことによって、頭も身体も維持できています。(金井島)
-  家の隣がいま空き家になっていて、草がぼうぼうに生えて困っています。気になるので届くところは切っていますが。(金井島)
-  私も高齢のひとり暮らしですが、ゲートボールやパークゴルフに行くとやはり楽しいです。なぜ皆さんもっと出てこれないのかなーと思うことがあります。(金井島)
-  たすけあいの理想は皆さんが自発的に動いてくれたらよいのですが、そうはいきません。納得しないけど、やらないといけないから。(上延沢)
-  ここに越してきてから30年以上経ちますが、お隣のことでどこまで踏み込んでいったらよいかわかりません。民生委員さんがいろいろやったださってはいますが、庭が草ぼうぼうでどうしたものかと困っています。(下延沢)
-  円中でも単身世帯がかなり増えており、いずれ空き家になってくるのが目に見えています。(円 中)
-  私は歩けなくならないよう、筋肉をつけるため意識的に「貯筋」に励んでいます。(牛 島)
-  地域に住んでいて、声かけは大事だと思います。つながっているのを実感すると安心します。(牛 島)
-  孤立死などの悲しい例は出たくありませんが、実際あります。(牛 島)
-  コロナ禍を経て世の中いろいろ変わったと思いますが、いちばん大きく変わったのは人の心でしょう。(上 島)
-  移動スーパーの話もありましたが、この歳になるとネットスーパー等は苦手だし、やはり現物を見て買いたと思います。(上 島)
-  夫婦で暮らしていれば支え合って何とか生活できますが、どちらかが亡くなった場合などは孤独になり、精神的に非常にきついでしょ。病気になったらどうしようーという不安は常にあります。(上 島)
-  私の妻が亡くなったとき、一週間ほどは誰とも話したくなかったです。でもそれではいかんと、その後はなるべく外へ出かけるようにしています。気軽に「たすけてくれ」といえる人がいないとダメですね。(上 島)
-  やはり頼りになるのは隣近所です。普段から良好な関係を築いておきたいものです。(上 島)
-  自分の親が急に倒れたとき、社協にたいへんお世話になりました。(中家村)
-  よく行方不明者が放送されますが、かなり早い段階で発見されています。それは、地域のつながりが強いからなのでしょう。(下 島)
-  ベビーカーを引いたお母さんがゴミをポイと道端に捨てるのをみかけたことがあります。そういう苦情はけっこう多いです。「ここはこういう地区」との先入観で一律・画一的にみてはいけないと思いました。(パレットガーデン)

- 🍀 以前から感じていたことですが、エレベーターで会っても目を逸らす人が多いです。子どもたちも同じです。なかには笑顔であいさつしてくれる子もいますが一。

「あいさつしましょう」と自治会でポスターを貼ってもらえませんか。

（パレットガーデン）
- 🍀 コロナ禍の影響で自治会行事が少なくなり、予算は余っているのではないですか。それを有効に使わないといけないでしょう。

（パレットガーデン）
- 🍀 私は未だに地理が分かるところは町内の1/3くらいで、イメージが湧いてきません。

（みなみ）
- 🍀 地域のために昼間動ける人は、みなみの場合皆無です。

（みなみ）
- 🍀 「阿波踊りの蓮をみなみでつくってほしい」といわれるのですが、先ず太鼓や笛などないし、揃えるためにはそうとう費用がかかります。そういう人は踊ることばかり考えていて、演奏する人のことや継続していくことなど考えていません。他の地区へ運営方法などを教えてもらいに行き、「これならできる」ということになればいいのですが一。

（みなみ）
- 🍀 もともと自治会と阿波踊り蓮とは微妙に異なる部分があります。人間関係を含めて、どんど焼きなどよりもはるかに難しいです。

（みなみ）
- 🍀 地区ごとの高齢化率をみると、隣のパレットガーデンは意外と高いんですね。岡野はとても高いものの要介護認定率がそれほどでもないのは、畑仕事などに勤まれている方が多いため一とのこと。昔からの方が多く、各世帯が濃くつながっている地域なのだろうな一と想像し、興味深く資料を拝見しました。（みなみ）



◎中家村



II 關係資料



みんなで育もう！
誰もが安心してイキイキと暮らせる福祉のまち
かいせい



令和6年度
地区別ふくし座談会
報告書

【編集・発行】 社会福祉法人 開成町社会福祉協議会
(文責者：土井)

〒258-0021

開成町古田島 1043-1 (福祉会館 1F)

TEL (0465) 82-5222